

貴船神社を初訪問

十八日に行われる浅草・三社祭の斎行七百年祭「舟渡御」の実行委員会ら約二十人が二日、大田区大森東の貴船神社を初めて訪れた。大森の漁師と浅草とは縁が深く、三社祭の起源「舟祭」には必ず大森から船が出たとされる。五十四年ぶりに復活する舟渡御の安全と成功を、ゆかりの神社で祈願した。

貴船神社を訪れた浅草神社奉賛会の関係者らは、神事後、貴船神社氏子らと交流した。「大森区史」などによると、江戸・元禄期に出された生類憐れみの令で、浅草方面の漁業が禁止され、この地の漁師らが大森に移動したという説があ

三社祭の斎行七百年祭「舟渡御」実行委



貴船神社の本殿前に集まった大森と浅草の人々＝大田区で

大田 54年ぶり復活、安全と成功祈願

る。舟祭では、大森の漁師が供奉した舟に三基の宮神輿を載せて現在の隅田川を航行したという。

「こんな縁があったと、初めて知った」と話すのは貴船神社氏子会委員長、鳴嶋利和さん(七〇)。「これを機に将来、大森と浅草を船で結ぶなど、交流を深めていければ」と話していた。同神社の萩原俊紹宮司(六〇)は「歴史、伝統、文化をきっちり継承し、次の世代に受け継ぐ大切さを感じる」とエールを送った。

十八日、三基の神輿を吾妻橋近くの東参道棧橋から船に載せ、船団を運ぶ。桜橋―両国間を航行する。

(丹治早智子、榎本哲也)

三社祭700年祭

54年ぶり舟渡御成功を

十八日に行われる浅草・三社祭の齋行七百年祭「舟渡御」の実行委員会ら約二十人が二日、大田区大森東の貴船神社を初めて訪れた。大森の漁師と浅草とは縁が深く、三社祭の起源、舟祭には必ず大森から船が出たとされる。五十四年ぶりに復活する舟渡御の安全と成功を、ゆかりの神社で祈願し、交流を深めた。(丹治早智子、榎本哲也)

大田・貴船神社訪れ祈願

同日、台東区の浅草神社奉賛会、舟渡御実行委、浅草観光連盟の関係者が参加。貴船神社の社殿で神事後、同神社氏子らと、見渡す限りノリ干し場だった大森の昔の写真を見るなどして交流した。

「大森区史」などによると、江戸時代の元禄期に出された生類憐れみの令で、浅草方面の漁業が禁止され、この地の漁師らが大森に移動したという説がある。三社祭の起源とされる江戸時代の

「舟祭」では、大森の漁師が供奉した舟に三基の宮神輿を載せて浅草川(現在の隅田川)を航行したという。区史には、大森の船が浅草に到着しない時は、三社権現の祭りができなかった、とある。

「三社祭はわれわれにもあこがれ。こんなご縁があったと今回、初めて知った」と話すのは代々、大森でノリの養殖をしていた貴船神社氏子会委員長、鳴嶋利和さん(左)。舟渡御の成功を

浅草の実行委 ゆかりの地 交流再び

祈る。これを機に将来、大森と浅草を船で結ぶなど、交流を深めていければ」と話していた。

貴船神社の氏子の多くは漁師やノリ養殖業者。命懸けて真冬のとつてきた氏子らは信仰心が強いという。貴船神社の萩原俊紹宮司(左)は「ゆかりある浅草神社と再び

交流できたのも神様のおぼしめし。歴史、伝統、文化をきっちり継承し、次の世代に受け継ぐ大切さを感じる」とエールを送った。

浅草観音が示現したとされる十八日、三基の神輿を吾妻橋近くの東参道棧橋から船に載せ、船団を連れ、桜橋―両国間を航行する。吉岡暢久・舟渡御実行委員長(左)は「貴船神社の水の神様の力を借り、当日は天気にかつたい」と話した。



貴船神社の本殿前に集まった大森と浅草の人々＝大田区大森東で